



第133号
2020年10月15日発行
千葉大学教育学部
同窓会
〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町1-33

現在の教員養成と 教育学部の将来について



新潟大学 理事・副学長 小久保 美子
(S 52・3 卒)

二〇二〇年七月31号発刊の「内外教育」で、千葉大学附属小学校が「オンライン通学」を提案したとの記事を拝読した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う突然の臨時休業に際して、米マイクロソフト社のクラウド型チャットツール「Teams(チームズ)」を使ったオンライン学習模索の経験に基づき、「オンライン通学」を提案したという内容である。「さすが千葉大学附属小」と大変嬉しく思うと同時に、大木圭副校長が投げ掛けた次の疑問の言葉が強く心に残った。「そんなにビフォーコロナの生活に戻りたいのか」。この度のコロナ禍は、教育の在り方を一変させた。「一人一台の端末環境を」という文科省のGIGAスクール構想は一気に加速の勢いを見せている。(GIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの略)。

今、目の前にいる子供たちは、予測不可能なSociety5.0の時代に生きていく。今年度から小学校で全面実施となった新学習指導要領では、プログラミング教育やインクルーシブ教育について述べており、GIGAスクール構想もこれに応えるためのものである。

さて、今回頂いたテーマはタイトルのとおりであるが、コロナ禍で様変わりした学校の現状に鑑み、「現在」の定義も変更せざるを得なくなった。今年度は、学生もオンラインで受講している。対面が必須であった教育実習は大幅に緩和され、必要最低限の現場実習でよいこととなった。生まれた時からICT環境の中で育った学生は、私たちほどオンライン授業に抵抗感はないだろう。しかし、学習指導案の作成もままならない学生が、「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブラーニングの授業を、オンライン授業で実現するのは容易いことではない。そうであってもなお、学生はア

紙面紹介

特別寄稿	6面
学校現場から	2面
学校現場へ	3面
会員のいきいきだより	4・5面
私の学園生活	7面
私の趣味アラカルト	8面
四街道に存在した教育学部	8面
功労者と永年勤続者の紹介	9面
令和2年度の役員の紹介	9面
功労者表彰受賞者からのメッセージ	10面
千葉師範、県初の甲子園出場	11面
支部だより	11面
事務局より	12面
物故会員	12面
令和2年度経常予算の紹介	12面
編集後記	12面

フターコロナの新しい教育を実現する担い手として、子供と教師、子供と子供の双方向性の下に「新たな知」が創造される、対面とオンラインとを組み合わせた「ハイブリッド型授業」を構築する力を身に付ける必要がある。そのような質の高い教員を輩出することこそ、国立大学教育学部の使命であろう。

千葉大学附属小の記事は、大木副校長の展望で締めくくられる。オンライン通学で▽友達とつながる安心感が得られる▽不登校児童の学習の場を保障できる▽急な休校でも学習機会を提供できる▽状況によって、教員の在宅勤務も可能になる▽学童保育に教育学部生を派遣し、教職課程の単位として認定すると、学びの場を変えることで、「子供が安心して学び、教員も保護者も働きやすい社会を創出することができるのではないか」。

千葉大学教育学部が、日本の教員養成を牽引する存在として確かな位置を保ち続けてほしいと願う。

令和二年度の 定期総会は 中止となりました

当初、八月二十二日(土)に予定しておりましたが、今年度の定期総会は、新型コロナウイルス蔓延の影響により開催できなくなりました。その後も、大学の入構制限に伴う会場の確保も難しい等の理由でやむなく中止となりました。

同時に、理事会、記念講演会、表彰式、懇親会も中止となりました。功労者及び永年勤続者表彰につきましては、受賞該当者に確認後、九月中旬に、御自宅に感謝状と記念品を送付させていただきました。受賞者は後述の一覧をご覧ください。(事務局)



令和元年度・定期総会

令和2年度 功勞者表彰

宮島 佑吉 (事務局長5年、事務局次長1年、常任理事5年)
森 重文 (常任理事10年、理事1年)
鎗田 弘子 (理事16年)

令和2年度 永年勤続者表彰

※調査により、本人から掲載許可を得た方です。

- (1)支部関係 ☆流山市 加藤 暁世 小嶋 雅子 岡本 雅子 小嶋 務 平田 義高 ☆印旛地方 小泉三智雄 森 輝代 松浦みち子 鳥羽 文乃 佐藤 雅子 ☆香取地方 宇井 真理 齊藤 忠則 香取多美子 ☆匝瑳地方 鶴岡優美子 嶋田 道雄 ☆君津市 渡辺 千佳 渡邊 史郎 和田 俊昭 東 裕美子 ☆富津市 三田 彰一
(2)都道府県関係 ☆北海道 津村 早苗 湯澤 敦子 柳岡 芳枝 大塚三枝子 ☆群馬県 城田 茂喜 木村 功 市川 真人 廣岡 照子 北爪美代子 ☆埼玉県 関根 廣紀 山田 賢司 村川 和也 ☆千葉県 山森 裕美 小川 順子 久米 稔 福井 輝彦 竜田 晴美 中村 幸枝 杉山 英人 鈴木 富夫 鈴木 政之 佐瀬 郁夫 新田以津子 赤目川悦子 川崎 明美 鈴木 正敏 鞆山 久乃 大嶋 信之
☆東京都 渡辺 孝雄 黒澤 順子 山岸 智 川端 邦彦 福原 裕子 吉谷 順子 牛山 智子 松島 隆志 白鳥 郁夫 小川 純一 ☆富山県 梅澤久美子 ☆福井県 宇田 順一 宇田 幹子 ☆岐阜県 岩佐 恭子
☆静岡県 真野 文雄 田代 仁美 今井 睦子 増田 融司 松村 敏典 嶋 緑 當間 さよ子 八木 恵子 富丘 敦子 岩城 隆徳 ☆鳥取県 大石 雅一 ☆愛媛県 妻鳥 昇司 (敬称略)



令和2年度 役員・支部長・支部事務局長・学内理事

※印は常任理事

Table with columns: 役員・理事・顧問, 役名, 氏名, 卒年. Lists names and graduation years for various roles.

Table with columns: 支部長・支部事務局長, No., 支部名, 支部長, 卒年, 事務局長, 卒年. Lists branch leaders and their details.

Table with columns: 学内理事, 役名, 氏名, 所属. Lists university internal council members and their affiliations.

Table with columns: 同期会支部, No., 支部名, 支部長, 卒年, 事務局長, 卒年. Lists alumni association branch details.

Table with columns: 事務局, 役名, 氏名, 卒年. Lists staff office members.



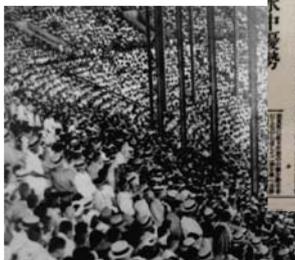
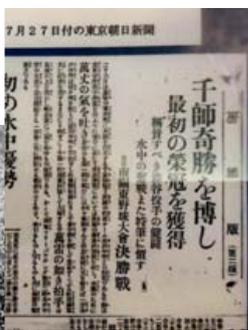
令和2年6月 常任理事会

ご存じですか! 野球で千葉県勢、初の甲子園出場校は 千葉県師範学校です

- 甲子園出場を決めた南関東大会の戦績
- 二回戦 千葉師範13対6成東中
- 準々決勝 千葉師範5対2銚子商業
- 準決勝 千葉師範8対2水戸商業
- 決勝 千葉師範8対7水戸中



資料展示室の様子



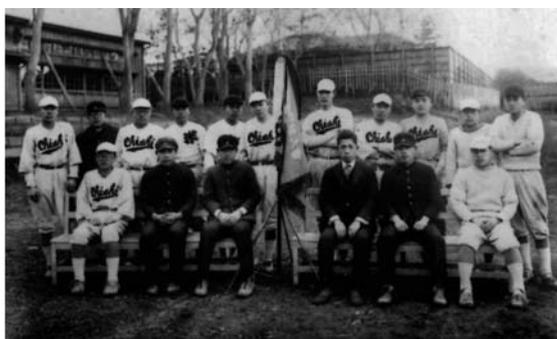
当時の甲子園球場から



コロナウイルスの影響で、恒例の甲子園野球大会は例年通りとはいきませぬでしたが、この大会に千葉県勢で最初に出場したのは、千葉大学教育学部前身の千葉県師範学校です。大正十五年年度の第十二回夏の大会です。

その貴重な資料が、船橋市総合体育館内にあるスポーツ資料展示室「吉澤野球博物館資料展示室」コーナーに展示されています。

展示されている資料から一部を紹介します。
(文責 水野平吾)



部員一同

〈船橋市教育委員会所蔵〉

旭市支部

支部だより

東京都支部

旭市支部は、令和二年三月現在、退職会員六十二名・現職会員五十一名で構成されている。主な活動として幹事会（例年八月実施）総会とその後の懇親会、（例年九月実施）、現退職者懇談会（例年十一月実施）がある（いずれも本年度は中止）。

当該年度の計画案等を協議する幹事会は支部役員と各小中学校の理事・評議員計十五名ほどが出席しており、本支部が組織的・計画的に運営されていることが表れている。

総会・懇親会は会員相互の温かな交流の場となっている。近況を報告し合い、学校現場に身を置く現職会員が豊富な経験をお持ちの先輩の皆様と膝を交えて話し合い、貴重な示唆をいただく、よい機会となっている。

本支部の特色ある活動が「現職者懇談会」である。この会は平成十九年度に始まり、昨年で第十四回を迎えた。半数ほどの現職会員が参加し、大切な情報交流と懇親の場となっている。

縁あって同じ千葉大学教育学部を母校とし、同じ旭市で教育に携わる者の絆を大切に育てていきたいと考えている。
(文責 藤野 直樹)

コロナウイルス禍により、支部の活動も六月以降、自粛を余儀なくされているが、少人数での連絡会は三密にならない範囲で継続している。集合場所は浅草・雷門。観光客の減少が顕著である。喫茶店で事務的な打ち合わせ終了後は浅草界隈の散策。地域・歴史に詳しい竹中支部長がガイド役。

隅田公園や向島百花園、由緒ある甘味処に寄り道などと、古希に合うひとときを楽しんでいる。白川庭園や富岡八幡宮、雑司ヶ谷霊園や巣鴨地蔵など、いずれは、と話題にあがっている。

事務局から提供された卒業生名簿は、永年勤続表彰のリストアップする際に活用させていただいている。名簿のなかに親しい人の名前を発見すると、「千葉大だったのだ！」と一挙に親しみが湧いてくる。

今年も総会も永年勤続表彰も開かれず残念に思う。東京都支部として同窓会活動に貢献できる活動に今後力も注いでいきたいと考えている。
(文責 山下 康弘)

